

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 23号

2012/11/5 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、11月2日カカオ市場：ロンドン、NY両市場とも続伸（11/3）

11月2日（金）のカカオ市場はロンドン、NYの両市場とも続伸した。コートジボワールで、税率の混乱から税関職員がカカオ製品の輸出を一部差し止めたことや、ガーナで新年度最初の週の買い付け量が前年同期を42%下回ったことなどが背景。ココア相場は、他の商品相場の軟化とは逆行高となった。ニューヨーク市場の12月きりは27ドル（1.1%）高の2447ドルで終了。ロンドン市場の3月きりは18ポンド（1.2%）高の1578ポンドで引けた。

2、米ニュージャージー州のカカオ豆認証倉庫でも洪水被害（11/3）

米インターコンチネンタル先物取引所（ICE）は11月2日付の通知で、認証倉庫運営会社コンチネンタル・ターミナル（ニュージャージー州カーニー）が保管している認証済みカカオ豆2200袋が、ハリケーン「サンディ」の上陸で洪水被害を受けたと明らかにした。

ICEのデータによると、これは現在ICEの米国内の認証倉庫に保管されているカカオ豆411万8000袋のうち、0.05%に相当する。同社は、前日も倉庫に保管された認証済みのアラビカ種約3万5000袋が洪水被害に遭ったと報告している。

3、ガーナ新物の買付けペースは前年対比42%減の非常に遅いスタート（11/1）

ガーナの新物カカオの買付け数量が新物が開始した10月12日から10月19日までで前年同時期対比で42%減少となる86028トンとなったことがココボードの発表した統計で明らかになった。

2012/2013シーズンの買付けペースが遅いのは、降雨がないことと、2011/2012、前シーズンの最後にかなりのカカオ豆を販売したことが理由として挙げられている。

『雨はついに降り始めたが、タイミングが良くなく、カカオポットの生育が十分ににならない』と東州のカカオ生産地区であるTafoの生産者は言う。

世界第2位のカカオ生産国であるガーナは、2012/2013シーズンにはカカオの買付け価格を前シーズンのカカオ豆1トン当たり、3280セディ（1735ドル）から3392セディ（1795ドル）に引き上げた。

財務大臣のKwabena Duffuorはこの価格上昇はカカオ生産者に利益をもたらし、今まではカカオの輸出税によって一部賄われていたカカオ農園の再投資を生産者自身で行うことが促進されると説明している。ココボードは、2012/2013シーズンは80万トンのカカオ豆の買付けを目標としており、2011/2012シー

ズンの 88 万トンよりは減少する見込みである。

ガーナは、2010/2011 シーズンには過去最高の 100 万トンの生産数量を達成したが、業界の関係者の一部は、この数字の急激な上昇の理由の一部は当時内戦状態にあり、数カ月にわたりカカオ豆が輸出禁止状態になっていたコートジボワールからの密輸が含まれているからだとも言われている。

4、2011/2012 年度のコートジボワールカカオ豆期末在庫、18万5832トン (11/2)

1日にコートジボワールのコーヒー・ココア評議会（CCC）が発表した統計データによると、2011～2012年度の同国2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆期末在庫は、新年度開始前に輸出業者が申告した分も含めて18万5832トンだった。国内粉碎業者の保有在庫は7万2263トンと、在庫全体の39%を占めた。

5、コートジボワールのカカオ豆着荷量、10/28日時点で8万7000トン (10/30)

コートジボワールの輸出業者が10月29日に公表した推計によると、今年度（2012年10月～2013年9月）の同国2港のカカオ豆着荷量は10月28日時点で約8万7000トンだった。前年同期は9万0609トン。

仲介業者に対する資金難で、メインクropp期前半にカカオ豆の供給に影響が出ると懸念されていたが、着荷量はこの3週間で徐々に回復してきている。10月22～28日のカカオ豆着荷量は約3万6000トンと、前年同週の4万3750トンを下回った。

6、アジア産ココアバターのレシオ2年ぶりの高水準に。需要はパウダーに消極的(11/2)

アジア市場でのココアバターのレシオは需要者が今後の強い需要に備えて在庫を積み増ししようとしていることから最近2年間で最も強い水準に達しているが、一方で直近の積み時期のココアパウダーへの需要が少ないことから磨砕業者がパウダーの価格を切り下げている状況があるとシンガポールのトレーダーが語った。

ココアバターは直近の積み時期に対してロンドン市場価格に対して、1.6レシオで販売された。2週間前は1.5レシオであったが、クリスマスやバレンタインデーを前にした需要期にも関わらず欧州の磨砕業者が磨砕数量を減らしていることを受けて、世界中のチョコレートメーカーからの強い需要により上昇した。

『買付け需要は商品の不足感のある欧州市場から来ている』先のトレーダーは言う。

『私は、この需要は後3カ月は続くとみている。もし12月積み出し以前のココアバターを買いたいのであれば、あなたはおそらく2.0レシオを払わなければならないだろう。これは、欧州市場でのバター在庫の不足を示しているし、この状況は2月までは変わらないだろう』

『欧州の磨砕数量の減少は、液体ココアバターでの納品の減少を意味している、欧州の需要者はアジア市場で調達した場合は、ココアバターを溶解して使用しなければならなくなり、溶解設備のキャパシティもまた欧州では限られている。』シンガポールのトレーダーは続ける。

アジア市場のココアバターのレシオは1月から約60%上昇しており、欧州市場のココアバターのレシオも引き続き高値に上昇しており、10月・12月積み出しのレシオは2.0である。

しかし、一方でココアパウダーの価格は2週間前に需要者が購入していたレベルの\$3700から下がっており、現在1トン当たり\$3,300~\$3500になっている。基本的にココアバターとパウダーは反対の値動きをする。

『ココアパウダーについては需要が少し落ちてきている感だ。しかし、ロシアや中東からの引き合いは来ているよ、ココアバターの引き合いはやっぱり強いよ。』クアラルンプールが拠点トレーダーは言う。

来週の動き：

ココアバターのレシオはチョコレートメーカーからの買付け需要もあり、引き続き来週も強くなっていきそうな勢いだ、一方でココアパウダーの価格は更に下がる可能性がある。

ココアバターのレシオが大きく上昇するようであれば、ココアパウダーの需要者は、底値でココアパウダーを買付けようとゲームを待つような展開であろう。そういう状況になれば市場関係者は皆パウダーが下がるのは容易に予測できるからね』シンガポールのトレーダーは話した。

7、コートジボアール税法違反で72,000トンのカカオ製品の輸出が停止措置に（11/2）

コートジボアールの税関が2011-2012シーズンの終盤のカカオ豆在庫から製造されたカカオ加工製品の輸出手続きに関して、輸出税支払いの手続きの混乱で72,000トンのカカオ豆の輸出を一時停止していることが税関職員、輸出業者筋からの情報で明らかになった。

世界最大のカカオ生産国であるコートジボアールは過去20年間にわたり現地の磨砕業者に対して支払っていた輸出税金の軽減を意味する補助金を今シーズンから廃止したが、磨砕業者は前シーズンに製造された在庫品については、今シーズンからの新しい輸出税金の移行期間としてルール適用外だと主張している。

『全ての輸出業者のカカオ製品は現在税関によって輸出を止められている』アビジャンベースの磨砕業者の役員は説明した。

8、インドネシア・スラウェシ島からの10月カカオ豆輸出前年対比17%減少（11/2）

インドネシアの主要なカカオ豆産地であるスラウェシ島からの10月度のカカオ豆輸出数量は、前年同月が**6,877.8トン**であったのに対して、今年度は**5,734.81トン**となったことが判明した。

10月度のカカオ豆の輸出は9月度の輸出数量の1/3以下であった。

インドネシアはコートジボアール、ガーナに次ぐ世界第3位のカカオ生産国であるが、この数年はカカオの病気と変化しやすい多様な気候によりカカオ豆の生産数量に被害を受けている状況が続いている。

下記は、2011/2012年のスラウェシ島のカカオ豆輸出実績統計

《2012》

月	輸出（トン）	前年対比（%）
October	5,734.81	-17
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37

June	4,935.48	-68
May	7,912.02	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23

《2011》

December	12,051.72	-21
November	11,702.34	-45
October	6,877.80	-80
September	7,388.28	-61
August	8,421.50	-77
July	13,434.53	-70
June	15,232.68	-41
May	15,099.9	-23
April	1,570	-76
March	11,132.01	-40
February	9,871.4	+12
January	11,634.66	-55

*現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp